

東播磨

地域で守り育てる30メートル水路

浜手ボランテ³⁰
会長 大篠 昭雄（加古川市）

加古川市浜手地域の30メートル水路は、水は汚れゴミも多く、地域住民にとって関わりの少ない場所になっていました。

そこで私たちは、周辺環境を守り育てる意識が地域に根づくよう、30メートル水路の清掃や除草作業、ハマボウやノシギクの植栽などの活動に取り組みました。

今では、30メートル水路周辺には、千五百本のハマボウ、ノシギク花壇、ドングリ森が整備され、ハイケボタル、カフトムシ、メダカやウナギなど多くの生き物が棲めるようになりました。子どもたちが水路に親しむことができるようホタル観察会、ハマボウ観



自然観察イベントで昆虫採集

察ウォーキング、ハマボウ植樹会などのイベントも開催しています。これからも地域と連携し、環境整備活動に続けて取り組んでいきたいと考えています。

〇問い合わせ先
浜手ボランテ30 会長 大篠(おおしの)
電話 090-9117-0750

但馬

八条コミュニティと元気な子どもたち

八条コミュニティ
会長 佐野 守男（豊岡市）

このとり翔けるまち豊岡に、平成二十九年四月、八条コミュニティが誕生しました。地域活動を通して地区における課題の解決を図るとともに、「明るく元気で住みよい八条づくり」をめざして活動しています。

七月、「ビオトープ八条まつり」を開催しました。子どもたちや保護者など百四十名の参加者は、ビオトープができるまで、このとりのお話、どじょうの放流、水辺の生きもの調べなど、環境学習を主眼に一日を楽しみました。

そのほかにも、子どもたちが地域でいきいきと過ごせるよう、「パンづくり教室」や「そば打ち」などのさまざまな



生き物調査後、ビオトープにどじょうを放流

〇問い合わせ先
八条コミュニティ 海野
電話 0796-24-1164

淡路

四季を感じる里山の活動にこぎつけて

里山アップフィールド
代表 上原 とし子（洲本市）

自由に思いっきり遊べる里山！淡路島の中央部に位置する洲本市宇原地区に里山アップフィールドがあります。

こじは、淡路島の冒険ひろばの一つで、月一回、最終日曜日に開催しています。自然の大きな木で作ったハイジのブランコやモンキーブリッジ、見張り台など、子どもはもちろん大人もわくわくする遊具が沢山あります。

春は花見、竹藪の筍採り、夏は昆虫採取、秋は果実の収穫、冬は木の美でクラフトやクリスマスリース作りと、四季を感じる事ができます。ジャンボしゃぼん玉や、段ボール遊びなどで創造性を育てる遊びも人気です。

地元のボーイスカウト団などが利用



段ボール遊びを楽しむ親子

〇問い合わせ先
里山アップフィールド 上原
電話 090-7105-3895

中播磨

世代を超えて「輪・笑・和」

青山1000人会
代表 岸岡 孝昭（姫路市）

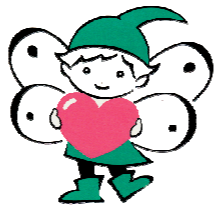
平成一七年に姫路市青山地区で起きた青少年による事件をきっかけに、子育てを地域全体の課題にしようと、民生委員・児童委員が中心になり設立したのが、「青山1000人会」です。

当会の活動の中に、福祉相談や、認知症防止講座などを併せて開催している「ふれあい喫茶」があります。夏休みなどには、子どもたちが一日店長として活躍するなど幅広い世代交流の場となり、参加者に「顔の見える関係づくり」ができること、大変好評です。また、アンケートを実施することで、常に地域のニーズに合った活動を展開しています。



公民館で開催されるふれあい喫茶の様子

〇問い合わせ先
青山1000人会 岸岡 孝昭
電話 079-266-3529



愛称：ココロン

ココロンHP内の県民情報ネットワークのページでは対談を動画配信しています！



県民運動情報「ネットワーク」

“こころ豊かな美しい兵庫”をめざして

特集 「地域で育む 未来を担う子どもたち」

編集発行 こころ豊かな美しい兵庫推進会議（兵庫県企画県民部県民生活課内）
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1 Tel 078-362-3136

自己紹介

岸田 子どもミュージカル劇団FUNKYキッズは、平成九年の八月に創立し、今年で二年目です。ASハリマアルピオンでは三年、代表をしています。FUNKYキッズ創立のきっかけは、音楽を聴くと身体が動いてしまっ、歌ってしまっ、ピアノを落着いて弾けないというお子さんのお母様からの相談を受けたことでした。私はその子さんの表現だと思いました。「お母さん、これはひとつの個性なんです」と。その個性を伸ばす何かをやりたいと思ったことが、FUNKYキッズの始まりです。最初は七名から始めました。私の子どもに対する思いや、後進の指導の中で自分がどう成長していき、どう刺激を与えて創造性豊かな子どもたちを育てていけるか、という課題意識を持ちながら、活動を続けています。

知事 日野さんは、子どもの頃から野外活動に参加していたのですか。

日野 小学生の頃からキャンプに参加していました。そして高校生になったある日、「久しぶりにキャンプの時に会った人やリーダーと遊びませんか？」

という手紙が一通届きました。これは楽しみだと思いきや、気づいたらリーダーになっていました（笑）。

知事 それ以降ずっとキャンプに参加をされ、今は指導者役も務めておられるんですね。

日野 今働いているOAA（野外活動協会）の学生リーダーや、神戸市の教育委員会のジュニアリーダーなどの団体で活動してきました。兵庫県の自然学校のリーダーも経験しています。



日野 健太郎さん

子どもの個性を伸ばす環境

知事 子どもたちの個性を伸ばす為に気を付けていることはありますか？

岸田 自由な発想で、自分が言いたい事を発言出来る力を幼少の頃から持っていること、「コミュニケーション能力（人間力）」が高くなると思っています。でも、叱るべきところは叱らなくてはなりません。叱り方としては、悪いことをするとその時にすべ叱る「現行犯逮捕」でやっています。親御さんには「私

がちやんと叱ったので、家ではもう絶対に叱らないでください」と伝えます。家に帰ったらお母さんに叱られる。お父さんが帰ってきたら、また叱られる。では、子どもは耳を塞いでしまっています。

知事 これは、学校の先生に教えないでくださいませんか。

岸田 その代わりに「そんなことしちゃダメよ」とはなく、腕をバツと掴んで「コラッ!!」と叱ります。それでお仕舞い。子どもは一回叱ればちゃんと覚えてくれます。涙を見せたら、劇団のお姉ちゃんたちがフォローします。

知事 今の話は、野外活動での指導にも共通しますか？

日野 共通点がありますね。特に、キャンプで危ないことがあったり、死ぬかもしれないという時はもちろん止めます。もし二度目があれば、そこで本当に次に続かないように声をかけます。ただ、もう一方の「プレーパーク（冒険ひろば）」という事業では、あまり叱ることがありません。プレーパークとは、兵庫県が行う冒険ひろば事業で、子どもたちが「自分の責任で自由に遊ぶ場」です。大人は指示をしたり注意の言葉をかけずに、自由に子どもたち

が遊ぶのを見守ります。少々危ない事をするくらいなら出来るだけ見守って、ちょっとした怪我をしても、「こうしたから怪我をしたんだ」という事を学んでもらいます。

「怒る」と「叱る」

知事 いまの子どもたちは少し押せば動くけれど、押さないと動かない子が多いですね。どう鍛えればいいんでしょうか？



岸田 直美さん

岸田 「何かをする」と叱られるかもしれない」と考え、行動を起こさない指示待ちの子どもが増えています。怒る事は誰でも出来ますが、叱ることは、なかなか出来ませんが、「怒る」は感情的に、事あるごとにグツグツと怒る、だと私は思います。「叱る」は、叱る側もちゃんと指針を持つ。私は「サンドイッチ方式」で叱ります。例えば、まず肯定で「いつも大きな声で挨拶が出来るよね」。次に否定で「でもこういうことやったでしょ、どういふことに繋がるかわかる？」と叱ります。最後にまた肯定して、「大丈夫、出来るよね、もう二度としないよね。頑張ろうね」と叱ります。

知事 日野さんも野外活動で指導をしていて、相通するところがありますか？

地元への定着

知事 岸田さんが、ASハリマの代表になられたきっかけは何でしょうか。

岸田 ASハリマルピオンは、日本短期大学の女子サッカー部から発展したチームです。部員は、全国からサッカー部に入る為に来るけど、短期大学なので二年で卒業して、地元に戻ってしまう。こんなに素晴らしい娘たちをこの播磨に、この兵庫に定着させる方法として、チームを作りました。

知事 卒業しても、播磨でサッカーを続けられる仕組みを作ったんですね。



岸田 頑張ってくれて、三年でなでしこリーグの二部に入り、今年度はオリンピック強化指定選手も選ばれました。彼女たちは生活のために、播磨の企業で朝から夕方まで八時間フル労働して夜に練習し、土日は遠征します。しっかりと働いてスキルがつくので、引退後も正社員として働いています。職場で結婚をしたり、他県から来て兵庫県民になった選手もいます。雇用先にも、「選手をやめた後も、彼女たちを育てただけ働かせてやってほしい」と協力をいただいています。

知事 それは素晴らしい。もっと兵庫県の人口増に寄与していただけたら、ありがたいです。日野さんが鍛えている子どもは、兵庫に残っていますか、世界に雄飛していますか。

的にはしていませんが、「怒られる体験」をさせてあげようと思っています。ただ、子どもが「怒られてしまった」と思ってシャットアウトしないように、「こういう理由で怒った」という話をしたり、他のスタッフと一緒に連携して、フォローをします。怒られるだけでは、心が小さくなってしまつので、怒ったあとの対応が大事だと思います。

野外活動での体験

知事 野外活動で、子どもたちを楽しませるために、他にも気を遣っていることはありますか？



日野 プレーパークでは、こちらから楽しませにいつてしまつと、子どもたちが「何をして遊んだらいいかわからない」ということが起こりかねません。なので、子どもたちが楽しいと思うことをやってみようという環境づくり」に励んでいます。キャンプではプログラムを用意して、楽しみながら、リーダーシップ、チームワーク、コミュニケーションなどを体験学習する機会を生み出すよう意識しています。

知事 それは、シナリオが何かを作っているのでしょうか？

日野 まだ子どもなので、どこへ羽ばたくかは分かりません(笑)。自分自身は子どもの頃からキャンプをして、偶然にも現在キャンプを仕事にしています。同じように、子どもの頃キャンプに参加していた大学生リーダーや、リーダーになりたい子どもたちが増えてきて、そういう循環が今起こりつつあります。地域でキャンプをして得た力を、また地域に返す、そういう活動をする子どもになってもらいたいな、と期待しています。それが世界まで行けばもっと良いのですね。

今後の抱負

岸田 劇団を通じて、子どもたちに夢を実現できる環境作りをしてあげたいです。ASハリマでは、スポーツを通じて、トップリーダーになれるという身近な目標を与えたいです。魅力あるチーム、魅力ある劇団が、人の吸引力になることを目指します。

知事 宝塚の高校にある演劇科では、ほとんどの卒業生は他の分野に進みますが、その時の体験や勉強がとも役に立つと言っています。きっと、岸田さんが育てた子どもたちも羽ばたいてくれると期待しています。

岸田 「県民だから出来ることをやるう」が私の口癖です。兵庫県には素敵な自然や、いろんな産業があります。「地元播磨に戻ることが恩返しだ」と言っています。

知事 力強い味方を得た気分ですね。

日野 兵庫県は、野外活動をする上で

成の場にもなります。ついこの間も、雪の中でキャンプをやってきました。

知事 大喜びだったでしょうね。

日野 都会の子どもたちは、白い世界を見るだけで「わー！雪だ！」と。それだけでも、すごい体験です。

知事 他には、どんな野外活動を？

日野 田舎生活の体験キャンプも、よくやっています。かまどでご飯を炊いたり、民家を訪問して一緒に食べ物を採らせていただいて、直接調理する。まさに地産地消の流れを体験してもらつプログラムです。

活動のモットー

知事 ミュージカルでは、子どもたちをどう鍛えるのですか？

岸田 自然な笑顔を作れるように、イベントやボランティア活動に参加して様々な活動で出た笑顔を、自分の中にインプットさせます。そして鏡に向かって、楽しかったことを思い出して、「その笑顔でもう一回踊ってみよう！」と言つと、自然な笑顔が出てきます。また、シヨールを見た方に「あなたたちの笑顔を



は、全国でも数少ないとても良いフィールドです。日本海と瀬戸内海に挟まれて、山あり海あり川ありのなんでもあり。北海道や長野のようないハードな自然はありませんが、体験しやすいコンバクトな自然が揃っています。その環境と自然学校があるので、良いリ



地域団体の紹介

青少年との協働による『瓦木わくわくまつり』

瓦木地区青少年愛護協議会
会長 広野 久美子 (西宮市)

ました。今後も多くの方々に「瓦木で育つてよかった」と思っていただけ地域づくりを続けていきたいです。



小中学生が製作した神輿パレードの様子

〇問い合わせ先
瓦木地区青少年愛護協議会 北野
電話090-3972-8421